

## 令和元年度大牟田市総合教育会議（第1回） 会議録

◆ 日 時 令和元年10月9日（水）16時00分～17時00分

◆ 場 所 大牟田市役所3階 302号会議室

◆ 出席者

中尾市長、安田教育長、山本委員、嶋田委員、東委員、笹井委員  
教育施策関係部署

（企画総務部）井田部長、吉田調整監、世界遺産・文化財室 川地室長

（市民協働部）中島部長、富安調整監、地域コミュニティ推進課 徳川課長、

生涯学習課 大倉野課長、楠青少年担当課長、スポーツ推進室 徳永室長

（教育委員会事務局）中村事務局長 教育みらい創造室 平野課長、松葉主査、高倉指導主事

学校再編推進室 中野室長、学校教育課 平河課長、指導室 荒木室長

学務課 鷹尾課長、黒田給食担当課長、人権・同和教育課 野田主幹

（事務局：企画総務部総合政策課）藤丸課長、中島主査、三原主査、入江

◆ 議 事

〔議題〕

1. 大牟田市教育の振興に関する大綱（案）について

事務局より説明後、協議。

委員 SDGs の概念をもとに積極的に事業に活かしていこうという動きが一般企業に増えてきている。今後、ESD と SDGs をどのように意識しながら推進されていくのかを教えてください。

市長 本市では、1月17日を大牟田市ユネスコスクールの日として制定し、その後、市長、教育長、各部長で構成する ESD 推進本部を庁内に設置した。より全庁的に進めていくためにも職員向けの研修を実施し、それぞれの業務を通じて ESD や SDGs の達成に向けて取り組むことが必要であることを研修内容に盛り込みながら職員に浸透させていきたい。

関係部署 今後は、市の上位計画である第6次マストラの各施策と SDGs の関連が分かるようにしていきたいと考えている。

関係部署 第6次マストラについて補足して説明すると、資料①第6次マストラ（案）の「社会背景と課題（P11～12）」に SDGs や持続可能な社会づくりについて記載をしている。また、具体的な事業の検討を行うにあたり各事業が 17 ゴール・169 ターゲットのどの部分に関連しているかなど、各部局においては SDGs を意識しながら、事業の組み立てを行っているところである。

- 委員 資料②教育の大綱の施策4②で「ESDを通じた人づくり、地域づくり」が掲げられているが、具体的にはどのような事業を検討されているのかを教えてください。
- 関係部署 学校で取り組まれているESDの取組みを支援するような事業内容を検討している。7つの地区公民館の職員が学校を訪問し、学校の取組みで地域の支援が必要なものを聴き取り、地域の団体等と学校をマッチングするような事業を行いたいと考えている。  
また、ESDを学校教育だけでなく社会教育にも広げていきたいと考えており、まちづくり協議会等の取組みがESDに繋がっていることに気付いてもらえるような事業を行いたい。  
地域でのESDを広めていくため、地域の人自らが気付ける、そして子どもと保護者を巻き込んだ取組みを行なっていきたいと思っている。
- 委員 先ほど、説明いただいたように是非とも市の施策とSDGsの関連性については、計画の中で示していただきたいと思っている。  
現在、各学校では、学校のESDとSDGsのうち、どのゴールに関連しているのかを示しながら、取組みが進められている。学校だけでなく、市でも市の施策とSDGsの関連性を示すことで、子どもたちが自ら行動していることが、まちの未来に繋がっていることを感じられるようになると思う。また、現在の大牟田市では、ESDは子どもたちの取組みとしてしか認識されていないと感じているので、市の計画でも示していくことで大人も同じく取り組んでいかないといけないことが伝わると思う。
- 市長 ESDやSDGsが無かった世代がESDやSDGsの重要性に気付けるような仕組みづくりが必要だと思っている。まずは、職員にESDやSDGsを浸透させ、そして事業との関連を意識させることを狙って取組みを進めているところであり、今後事業展開と合わせて発信していくことが、市民へのアプローチになっていくと考えている。簡単なことではないが、着実に進めていきたいと思う。
- 委員 P7②文化芸術事業の充実について、平田オリザさんという著名な方を大牟田市に呼んでくださり、子ども達や市民の人が一流の方の話を聞けることに感謝している。文化芸術振興プランに記載されているアンケート結果には、子どもが文化芸術に親しむことが必要なこととして「学校での文化芸術の鑑賞機会」について44.3%の人が望んでいるとされている。子どもたちをはじめ、市民が文化芸術の鑑賞機会に期待している。

今後、情操教育の観点からも、一流の方を招く機会や音楽、ミュージカルなどの場を設けていただきたい。

市長 委員が言われるとおり、本物を体感する機会が重要だと思う。平田オリザさんが、身体的文化資本の蓄積が重要であると言われていた。私としても本物を味わわなければ、文化芸術の慣習は身体の中に蓄積されないと考えているので、市の職員にも文化芸術に触れることの重要性を伝えていた。

大牟田市では日本フィルの公演が行われている。子ども達が本物に触れる機会を少しでも増やすことが出来ないかと考え、子ども達にチケットを安く提供できないだろうかと考えたことがある。

音楽だけでなく、美術・現代アートなど色々な芸術に触れられる機会を設けるためにも、民間の方々と一緒に事業を展開出来たらと思っている。

委員 日本フィルは、文化会館での公演だけでなく、演奏者の一部が病院を訪問し演奏する取組みを行なっていると聞いたことがある。そのような取組みは大変良いことだなと思っている。

市長 大牟田市では日本フィルのようなプロの人達だけでなく、市民による様々な文化芸術活動が行なわれている。市内の民間や団体等で、文化芸術に触れる機会を設けていただいております、少しずつその輪が広がっている印象を持っている。活動をしている当事者やその関係者だけでなく、無関心層等にも少しずつ輪が広がっていければ良いと思う。

委員 文化芸術への関心を育むためにも、まずは、子ども達がより文化芸術に触れることができる機会を設けていただきたい。

委員 2点お願いしたいことがある。

1点目、ESDについて、大牟田市のすべて市立学校がユネスコスクールに加盟してから教育委員会を中心に取組みが進められ、今では市全体として取り組まれていることに感謝している。引き続きお願いしたい。

2点目、学校再編について、学校再編が学校だけでなく地域にも影響があることから、市・教育委員会では地域に対して大変配慮をいただいている。今後も引き続き地域とともにある学校づくりに努めていただきたい。

市長 教育は、人が育つ上で大事なものである。これまで教育長の取組みに共感し、私も一緒に取組みを進めてきた。持続可能なまちにするためには、

子どもの育成が大事であり、人材をどれだけ育成し続けられるかが重要になる。育成し続けるためには子ども達の教育環境をどれだけ整えられるかが課題になっている。子ども達が育っていく場所が学校だけでなく地域や地域の人達の中がフィールドと捉え、子どもとその地域がともに育ち、響きあうものになっていければ良いなと思っている。地域と学校が一緒になって子ども達を育てていることがより多くの人達に伝われば、「教育のまち大牟田」として、まちの評価につながり、大牟田市で子育てをしたいと思ってもらえるようになるかもしれない。今後も引き続き教育長を中心に、展開されていくことになると考えている。

2. その他  
事務局

次回の総合教育会議は来年1月から2月ごろの開催予定。

以上（17:00）終了